

令和7年度 学校評価（保護者・児童・教職員自己評価アンケート）結果について

向春の候、保護者の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、年間を通して本校の教育活動にご理解ご協力をいただきましたこと、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

今年度も「すぐーる」でのアンケートによる形式で保護者の皆様に学校評価アンケートを募らせていただきました。経年比較のために、内容はできるだけ同じものにしておりますが、本年度新たに設定した項目もございます。また、児童用アンケートは内容を理解しやすいように文言に変えて調査しております。

<表中の数字について>

「とてもそう思う：4」「まあそう思う：3」「あまりそう思わない：2」「全くそう思わない：1」とし、全体の回答の平均値を表したものです。

< I やさしい子 >

	評価項目	保護者			児童			教員
		R7	R6	R5	R7	R6	R5	R7
①	自分から進んで相手にあいさつができる	3.0	3.1	3.2	3.4	3.3	3.5	2.6
②	友達と仲良く生活できている	3.5	3.6	3.6	3.6	3.7	3.7	3.0
③	自分のことだけでなく、相手のことも考えた行動がとれている	3.2			3.3	3.5	3.5	2.6
④	約束したことやルール、きまりを守って生活できている	3.3	3.5	3.5	3.4	3.3	3.4	3.0
⑤	自分の身の回りを進んで片付けることができる	2.6			3.0	3.1	3.2	2.2
⑥	自分の「つよみ」がわかっている （*得意なことやよいこと）	3.0	3.1	3.1	3.3	3.7	3.7	2.7

他の項目や設問の結果と比較しても、例年数値の高い分野です。職員の評価が低めに出ているのは、今後の伸びしろを期待している思いが反映されているものと考えております。特に児童の自己評価で、②「友達と仲良く生活できている」と回答している割合が高い点は、日頃の学級での活動や道徳教育の成果と捉えています。友達関係については、およそ90%の児童が「おおむね良好：A+B」と回答していますが、そう回答しなかった10%の児童に関しては十分に様子を見ていく必要を感じます。学校生活の基盤となる友人関係については、今後も学校と家庭と連絡を密にとり、情報を共有していきたいと考えております。また、本校の教育活動で重点に捉えております⑥自分の「つよみ」については、今年度、児童が下がっております。自分に自信をもって活動に臨めるよう、引き続き重点的に指導してまいります。

<Ⅱ かんがえる子>

	評価項目	保護者			児童			教員
		R7	R6	R5	R7	R6	R5	R7
①	学習の内容を理解しており、身に付いている	3.1	3.1	3.1	3.6	3.5	3.5	3.1
②	自分の考えを聞いている人に伝えることができる	2.8			3.3	3.5	3.3	2.6
③	話している人の話を理解して、最後まで聴くことができる	3.1			3.5	3.1		2.7
④	自分から忘れ物をしないように、事前に準備をすることができる	2.7			3.3	3.3	3.2	2.6
⑤	進んで読書や音読をしている	2.8	3.0	3.0	3.1			2.8
⑥	進んで宿題や家庭学習をしている (毎日 学年 × 10分以上)	2.9	3.1	3.1	3.2	3.1	3.2	2.8

学習に関する項目は、児童が保護者、教員よりも評価が高くなっています。本校の重点目標の一つである「学力向上」の取り組みは、まだまだ途上ではありますが、子どもたちの「学びに向かう姿勢」には変化を感じています。学習に関する回答は、学年が上がるにつれて低い評価になりがちですが、本校では高学年でも「楽しい」「分かる」と回答する割合が高くなっています。この部分を大事に今後も指導に工夫を加えながら進めていきます。また、「話している人の話を理解して、最後まで聴くことができる」は児童と職員と捉えの差が大きく出ております。話の受け止め方や理解度を高められるように意識して指導にあたります。

<Ⅲ たくましい子>

	評価項目	保護者			児童			教員
		R7	R6	R5	R7	R6	R5	R7
①	進んで体を動かしている	2.9	3.2	3.1	3.3	3.1	3.2	2.8
②	早寝、早起き、朝ごはん など健康面に気を付けて生活している	3.0	3.2	3.1	3.2	3.4	3.6	3.0
③	好き嫌いなく食べることができる	2.9	3.1	3.1	3.2	3.4	3.4	2.6
④	進んで歯磨きをしている	3.0	3.3	3.3	3.6			2.8
⑤	交通ルールなど、安全面に気を付けて生活している	3.6	3.6	3.5	3.3	3.4	3.5	2.4
⑥	最後まであきらめずに物事に取り組むことができる	3.1	3.1		3.4	3.4	3.4	2.9

本校児童の運動能力の実態はさほど高くはなく、その対策として本年度も外遊びの推奨や体育委員会によるイベントなどで運動を推進しています。楽しく体を動かすことも大きなねらいですが、練習を重ねた後に達成する喜びを知って、進んで体を動かすきっかけとしてほしいという願いもあります。①「進んで体を動かす」の項目の値がさらに高まるよう指導にあたります。

交通安全については日ごろから繰り返し指導をしてきていますが、安全に対する意識付けについては、繰り返し伝えていく必要があります。ご家庭でも定期的に話題にしていただければ幸いです。

<IV 学校との連携>

	評価項目	保護者			児童			教員
		R7	R6	R5	R7	R6	R5	R7
①	学校に楽しく登校できている	3.5	3.5	3.5	3.4	3.1	3.2	3.2
②	学校で、安全に、安心した生活を過ごせている	3.4			3.6			3.2
③	真砂西小の職員は、がんばっていることを認め、励ましてくれている	3.4			3.7	3.4	3.4	3.4
④	真砂西小の先生は、こまったときやなやんだときに話を聴いてくれる	3.3			3.6			3.4
⑤	学級や学校の様子が家庭に伝わっている(児：様子を家で話している)	3.1			3.4			3.3
⑥	地域の行事に進んで参加している	2.4			3.0			2.6

①「学校で楽しく登校できていますか」の質問には、多くの児童が肯定的な回答を寄せています。しかしながら、全国的に不登校や登校しぶりの児童が増加している面から考えると、家庭と学校が予防的な見地で協力していくことが必要であるようにも感じております。学校でも家庭でも意識してお子さんの良い点に目を向けて言葉がけをしていくことが必要であると考えます。

<最後に>

今回記載した内容は、アンケート結果を分析したものの一部です。児童からの回答は、学年別学級別に丁寧に見取り、指導の改善に役立てて参ります。また、自由記述のご意見につきましても、保護者の皆様の思いも受け止め、今後の教育課程の編成に生かし、努めてまいります。もし、お子さんの日ごろの学校の様子をご参観になりたい場合は、まずは担任までご連絡ください。貴重なお時間の中、ご協力いただきありがとうございました。